

6. MRSAの消毒法

黄色ブドウ球菌はヒトの鼻腔や皮膚に常在しており、皮膚軟部組織感染症や慢性中耳炎、食中毒等の感染の原因となる。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）は多剤耐性化の傾向が強く、易感染患者に対する病院感染の原因菌の中では特に注目されている。¹⁾

【MRSAの感染経路】

易感染患者では、患者に定着（保菌）している菌による内因性感染が主体である。また、病院内感染として医療従事者の手指、医療器具、留置カテーテル、手術や医療処置等により感染する場合もある。¹⁾

「患者→医療従事者の手指→患者」や「MRSA汚染の環境・器具→医療従事者の手指→患者」等の経路で感染するため²⁾、手指消毒や手指頻回接触面等の環境や共用器具の消毒が重要である。

【有効な消毒薬¹⁾】

MRSAを含む黄色ブドウ球菌は、消毒薬に対する抵抗力が弱いので、ほとんどすべての消毒薬が有効である。したがって、生体には生体用消毒薬を、器具・環境には環境用消毒薬を選択する。また、熱湯消毒も有効である。70℃・1分間でも殺菌されるが、通常は80℃・10分間の条件が適当である。

【手指の消毒法³⁾】

汚れがない場合：速乾性消毒薬（ウエルパスTM、ヒビソフトTM等）（p4を参照）

汚れがある場合：予備洗後、洗浄剤含有消毒薬（イソジンTMスクラブ、ヒビスクラブTM等）

【器具・環境の消毒法】

MRSAが検出されている熱傷患者、気管切開患者、低出生体重児等の周辺環境は、MRSAで汚染されやすい。また、患者に使用したマンシエット（血圧計のカフ）や体温計等も汚染を受ける。

MRSAに汚染された環境は、アルコール系（消毒用エタノール等）や第四級アンモニウム塩（ベンザルコニウム塩化物等）等で清拭する。

器具やリネン類の消毒には、熱水消毒が最も適している。ウォッシュャー・ディスインフェクター^{*1}、熱水洗濯機、家庭用の食器洗浄機等を用いる。⁴⁾

※1 ウォッシュャー・ディスインフェクター（Washer-Disinfector：WD）は、汚染した器材を「洗浄→すすぎ→熱水消毒→乾燥」まで自動で行う装置のことである。⁵⁾

表 MRSAの消毒法

対象物		消毒法
器具	気管内吸引カテーテル ³⁾	・粘液等を滅菌精製水で除去した後消毒する。 8%エタノール添加0.1%ベンザルコニウム塩化物 ^{※2)} に30分～1時間浸漬後、水洗。(p6を参照)
	ネブライザー ³⁾	・超音波式：0.01%次亜塩素酸ナトリウムに1時間浸漬。 ・ジェット式：熱水浸漬(70℃・1分間等) ^{※3)}
	血圧計のマンシエツト ⁴⁾	・熱水洗濯(70℃・1分間等) ^{※3)} ・消毒用エタノールで清拭。
環境	床 ¹⁾	・日常の湿式清掃(モップによる拭き掃除)でよいが、清掃回数を増やして清潔に心がける。 ・0.2～0.5%両性界面活性剤、あるいは0.2～0.5%ベンザルコニウム塩化物またはベンゼトニウム塩化物で清拭。
	カート ドアノブ テーブル ベッドサイド 手すり トイレの便座 ³⁾	・消毒用エタノールで清拭。
	リネン類 ¹⁾	・特別な汚染がない場合は日常の洗濯でよい。 ・MRSAによる汚染が明らかな場合には、水溶性ランドリーバッグか指定のビニール袋に入れて運搬し、熱水洗濯(80℃・10分間)を基本とする。設備がない場合には、通常の洗濯を行った後に0.01～0.02%次亜塩素酸ナトリウムに5分間浸漬(脱色に注意)。 ・0.1%ベンザルコニウム塩化物に30分間浸漬し ³⁾ 、水洗後、通常の洗濯をする。
	ベッドパン ³⁾	・0.2～0.5%両性界面活性剤に30分間浸漬。
	浴槽 ¹⁾	・特別な汚染がない限り、通常の処理でよい。 ・必要な場合は0.2～0.5%両性界面活性剤で清拭後、温水でリンスする。

※2 ザルコニンTMA液0.1(健栄)(薬価基準未収載)や、ヤクゾールTME液0.1(ヤクハン)(薬価基準収載)等。

※3 70℃・1分間でも殺菌されるが、通常は80℃・10分間の条件が適当である。¹⁾